教職あらかると

死はタブーなのか？

～　故 渡辺潤一兄のこと　～

後藤　忠

絵本「葉っぱのフレディ」～いのちの旅～の作者レオ・バスカーリアは絵本の冒頭でこんなメッセージを述べています。

「この絵本を　死別の悲しみに直面した子どもたちと死について的確な説明ができない大人たち、死と無縁のように青春を謳歌してしている若者たち、そして編集者バーバラ・スラックへ贈ります。」

絵本の中でフレディは親友のダニエルに言います。

「ぼく、死ぬのがこわいよ。」

ダニエルは答えます。

「まだ経験したことがないものはこわいと思うものだ。でも考えてごらん、世界は変化し続けているんだ。変化しないものは一つもないんだよ。死ぬというのも変わることの一つなんだよ。…でも“いのち”は永遠にいきているんだよ。」

平成 14 年(2002 年)の 3 月、私は大切な友人を亡くしました。病の発症から 1 年、懸命の闘病も空しく友は逝ってしまいました。若すぎる 51 歳での逝去でした。

諸行無常とは言え、何とも残念で無念でたまりませんでした。

標題について彼は生前こう語っています。

「道徳教育では死を扱うべきではないと言われてきた。それは『死＝END』というイメージがあまりにも強く、明るさや希望とも無縁であることから扱わない方がよい、むしろ扱うべきではないと考えられてきた。しかし私は、死には本気で考えなければならない『厳しさ』があるからこそ扱うべきだと考えている。生と死について子どもたちと本気で語り、この厳しさに耐えられる授業を追求することが必要ではないだろうか。」（**「生きる力」を育てる感動と感化の道徳授業**：荻原武雄・久保千里編著/明治図書 1997）

確かな**生**は生命の有限の自覚から始まると。

弔辞

渡辺さん、これから一花も二花も咲かせ、豊かな熟年を迎えるはずのこの時に無常の風を払いのける術もなく、51 歳の若さで忽然と彼岸へ旅立たれてしまいました。

残念です。無念です。この思いは貴方に学び、貴方と交わった多くの友人、同人の思いでありましょう。ましてや、奥様と 3 人のお子さんの痛恨は察するに余りあります。

お互い道徳教育の追求をライフワークに、道指会や都小道研研修部、調査部等で切磋琢磨し合ってきました。校長就任も同期で、貴方は大田区、私は国立市でそれぞれ困難な経営課題を抱えながら何とか 1 年を乗り切った平成 9 年の道指会春合宿。静かに互いの健闘を称え合った連月荘の夜を思い出します。

これからも道徳教育推進のよきパートナーとしてずっと一緒にやっていきたかったのに、貴方にはまだまだ成すべき仕事がたくさん残っていたのに…、本当に残念でなりません。

生死の境を彷徨った発病。そして 9 ヶ月に及ぶ壮絶な闘病の末に至られた悟りにも似た安らかな境地を奥様からお伺いし、貴方の人間力の偉大さにただただ頭が下がる思いでした。

かつて道指会で出版した「感動と感化の道徳授業」の中で貴方は言っています。

＜中略＞

渡辺さん、貴方の生命は多くの人々の中に生き、そして永遠の生命となって生き続けます。

渡辺さん、どうぞ人間苦の無明を滅し、安らかな涅槃に生き続けてください。

さようなら。

平成 14 年 3 月 29 日　　友人　後藤　忠